



JSS 便り

ジャパニーズ・ソーシャル・サービス・ニュースレター

会長からのメッセージ： ルイ・淳子さんの 略歴 (渡加以前)

ディビッド 池田

最新版のJSSオンラインニュースレターで報告いたしましたように、JSSで長期にわたり会計、理事およびボランティアとして多大なるご尽力をいただいております。ルイ・淳子さんが2015年8月8日に脳卒中のため急逝されました。

オンライン版では、ルイさんの長年にわたるJSSやトロントのその他の日系グループにおける貢献や活躍について書きましたが、今号では、ルイさんのご家族やトロントの親しいご友人にもあまり語る事のなかった彼女の日本での生活に焦点を当て、いくつかのエピソードを交えて紹介させていただこうと思います。なお、これらの情報のほとんどは、ルイさんの50年来のご友人である渋谷登代様に依頼し、ご自身とルイさんの思い出やルイさんの小学校時代のご友人に連絡を取り収集したものを提供していただきました。

ルイさん(旧姓:堀さん)は、自他ともに認める“ガラッパチ”らしからぬ1943年3月3日(桃の節句)に東京都大田区雪ヶ谷にて母のます子さん、父の一馬さん

のもとに誕生されました。その後、ルイさんご一家は同区内の千鳥町に引っ越され、ルイさんも1971年に日本を離れるまでそこで生活されていました。

学生運動が盛んになりつつあった1960年、都立三田高校を卒業されたルイさんは早稲田大学文学部に入学しロシア文学を専攻されました。ルイさんいわく、ルイさんのお母様からどうしても大学に行くように懇願されたので大学進学を決めたそうです。ルイさんの高校の進路指導の先生には「4年制大学なんて行ったらお嫁に行けませんよ!」と助言されていたそうです。ちなみに、ルイさんは学生運動にはまったく興味はなかったそうです。

ルイさんは大学2年生のころ、「早大釣りの会」という同好会に入り、そこで渋谷さんに出会い意気投合され、その後この友情は50年以上続くこととなります。一緒に初めての溪流釣り、海釣りに出かけたそうですが、その時にお二人とも人生初の「ジーンズ」に足を通されたとか。ジーンズの下には、ワラジとゲートルという「ユニフォーム」で釣りに出かけましたが、ルイさんも渋谷さんもあまり釣りの才能は無かったとのこと。この頃ルイさんは麻雀を覚え、「同好会の仲間たちとよく卓を囲んでいた」ようです。

ルイさんは、1964年に大学卒業後、数年間日本の企業で勤務されたのち、1971年11月にそ

の前年から渡米し英語を勉強されていた渋谷さんを頼りシアトルに行くという彼女のその後の人生を大きく左右することになる大冒険を決行されました。

渋谷さんは翌年の1月よりハワイ大学に進学することが決まっていたので、それに合わせてルイさんはデトロイトの知人を訪ねることに決め、それまでの1ヶ月ほどの間に学生時代からの二人の夢であったアメリカ大陸横断旅行の一部を実現するため、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、ラスベガス、グランドキャニオンなどを一緒に旅されました。旅行の最終地点グランドキャニオンからグレイハウンド・バスでルイさんはデトロイトへ、渋谷さんはロスへ向かいました。渋谷さんのバスが先に出発したためルイさんが一人バス停に残される形になってしまい、いつもは強気で元気いっぱいだったルイさんがとても心細い感じで雪の中で佇んでおり、それを見た渋谷さんは胸が苦しくなるくらい心配されたそうで、ルイさんとの思い出の印象深いシーンとして思い浮かんでくるそうです。

その後しばらくルイさんはデトロイトに滞在したのち、単身トロントに移動し、会計学のコースを取り、そのままトロントでBank of Tokyo(東京銀行)に就職されました。まさに、自分の人生を自分の持つあらゆる能力を使って切り開いていかれたということですね。

さて、渋谷さんによると、近年ルイさんが日本に頻繁に戻られるようになって「早大釣りの会」の仲間との交流が再開し、メンバーで東北の山に行き、仲間の釣ってくれた川魚を食すのを大に楽しんでいたとのこと。また、仲間からフキノトウやワラビなどの見分け方、採り方を教わるともう大変で、どこまでもわき目も振らず夢中で突き進んでいくので迷子になりかけたりして周りのメンバーをハラハラさせていたそうです。

山菜に対する突進力と同様に、近年ルイさんは俳句に非常な情熱を傾けていらっしゃいました。JSSの関係者は、ルイさんの俳句に関する知識と情熱、時々彼女の俳句が雑誌に載ったりすることから、若いころからずっと俳句を習われているのだらうと思っていたんですが、ルイさんが俳句に目覚めたのは5~6年前とのこと。しかしながら、彼女が興味を持った物にかかる情熱と努力は本当に凄まじいものがあり、俳句に対する情熱に比例して尋常ではないスピードで上達され、最近ではコンテストで入賞されるほどだったそうです。

JSSでの活動においても、私たちはルイさんの熱烈な情熱と献身を目の当たりにしてきました。その情熱と献身は10年以上にわたって全く冷めることなく、むしろ年々強くなっているようでした。ルイさんの明るい人柄やユーモアのセンスはいつもJSSのオフィスの雰囲気をややかにしてくれていました。

公家カウンセラーの回想:
私が最後にルイさんにあったのは7月30日で、夏休みで日本に帰る私を親切に空港まで送っていただいたときでした。

その車中の会話で、どんな経緯だったか、ルイさんが神妙な顔で

『今まで生きて来て、ほんといろんな嫌なことも大変なこともあったけど、今振り返ってみるとホント私ってラッキーだったな〜、って思うのよね。だいたいの準備ももうしてあるし、今なんかあったとしても、後悔とかはないわね。』と、おっしゃったんで、私も『またまた〜、「憎まれっ子世に憚る」っていうからルイさんは100歳までは大丈夫でしょう!』ってふざけて返し、ルイさんも『そうよね〜 そしたら、あなたも私も長生きするわね〜』なんて言っていたんですけどね。

ルイさんは、あまりにストレートにものを言いすぎて、波風を立てることが時々ありました。それでも表裏が無く、一本筋が通ってる面倒見のいい素敵な人だったので、結局「憎まれっ子」じゃなかったですね。

もっともっと、「憚って」欲しかったです・・・ なんか、ルイさんの性格だと『ほら、やっぱり私は“憎まれっ子”じゃなかったじゃないの!』って言って笑ってるかもしれないですね。

上記の渋谷さんからの情報や公家カウンセラーとの会話によると、ルイさんは情熱を持って打ち込める趣味や、たくさんの親友、2人の娘さんやお孫さんたちとの楽しい時間に満ちた、それほど後悔のない人生を送ってこられたのだと思え、私たちも彼女との早すぎる別離に少しの安らぎを感じることができます。

最後に、全JSS関係者を代表して、ルイさんご家族、ご友人に心から哀悼の意を捧げ、謹んでルイさんの御冥福をお祈り致します。

カナダ/トロント 日系コミュニティの高齢化について

三船 純子

GTAの他のコミュニティと同様に、日系コミュニティも高齢化が進んでいます。所謂「新移住者」として、1960年代から1970年代にかけてカナダに移住された方々が、シニアと呼ばれる年代になられています。その新移住者シニアの方々も、カナダの他のシニアと同様に、社会的または心身に関わる様々な問題に直面されています。

JSSのカウンセラーとして、70代から80代の日本語を話すシニアの方からのご相談を受けます。ご自身のご家族や近所の方から、サポートが必要な方だと認識されたり、またはシニアにサービスを提供する他機関から、その方が英語よりも日本語でのサポートを希望されるということでJSSを紹介されてこられることが多数を占めます。

健康な移住者シニアであったとしても、トロントでの普段の生活は容易いものではありません。他の民族コミュニティに比べると、私達の日系コミュニティは大変小さい為、組織的または社会的なリソースが限られていたり、そのリソースへのアクセスが容易ではありません。

またさらに私達の日系コミュニティには、他人の助けを借りずに自分の健全性を守り通す誇りのような日本的な考え方も、シニアの問題を複雑化させているように感じています。公共交通機関を使ったり、車を運転したり、心

身共に活発に活動したりというようなことは、若い時には何の問題もありません。また金銭的に恵まれていないとしても、若い人向けの財政的な援助を政府から受けたり、仕事をして収入を得るといった機会もあります。

しかし、70代、80代、そして90代になると、そうはいかなくなるうえに、いろいろなことが起きてきます。友人または夫や妻が亡くなることもあるでしょう。若い時にはあった仕事や他の活動を通して社会的な交流をする機会もなくなっていくます。身体の機動性の衰えや他の健康問題も出てくるかもしれません。そのような場合に、特に回りに日本語を話す家族や友人知人がいないシニアの方が孤立化しやすくなります。また収入が少ない場合には、シニア向けに沢山ある有料の活動やサービスにも参加したり受けたりすることが難しくなります。そのために家に閉じこもるようになると、孤立化がさらに進むこととなります。

JSSのシニア相談者の中には、精神的な問題を抱えている方もおられます。JSSからのサポートを提供する段階になっても、すでに長期に孤立化した状態の上に精神的な問題も悪化した状態であったりすると、サポートの提供が困難になることも多くあります。ですが、精神的に問題がある方でも、ご本人や他者に危害を及ぼす状態に無い限りは、ご自分の生活についてご自分で選択と決断をする権利があります。JSSとしては、そのような方々とさまざまな方法で連絡を取り続けながら、ほんの少しであっても相談者がJSSからのサポートを受け入れられるキッカケ作りをしていくようにしております。

問題予防方策の一環とし

て、JSSはモミジ・シニア・センター、コミュニティー・ケア・アクセス・センター(CCAC)や他の団体と連携しながらシニアへのサポートを提供しています。またJSSの様々なプログラムの中には、「こんにちプログラム」という孤立されがちなシニアをボランティアが定期的に訪問するプログラムがあります。さらに「合唱の会：懐かしい日本の歌を歌う会」が隔週月曜日の午後にJSSオフィスで開催されており、たいへん盛況です。このような活動を通して、私達のコミュニティーのシニアの方々が社会的交流を持ち続けたり広げていくことができるのではと思います。

またJSSや他の日系コミュニティーのさまざまなグループが、日本語を話すシニアのためのネットワークやプログラムを造りあげていくことも大事だと思

ます。バランスの取れた健康な食事をすること、適度な運動を続けていくこと、転倒予防や処方薬などの副作用などに気を付け、助けを求められるリソースを知っておくことなどは大事なことです。また社会的な繋がりを持ち続けていくことも、年齢を重ねていながらバランスの取れた精神状態を保っていく上で、とても大切です。日本人や日系人が噂やゴシップの煩わしさを避けて、日系コミュニティーには関わらないようにもしていることも多々あるようです。しかし、特に移住者は、好き嫌いに関わらず、自分自身のコミュニティーへといつしか戻ってくる人が多いように思います。私達ひとりひとりが、現存している孤立化をなくせるようなコミュニティー造りをしていく意識を持つ必要があるのではと感じています。

年末恒例のホリデードライブ

今年も、トロントに住んでいる日本人や日系カナダ人の誰もが少しでも楽しく歳末を過ごせるようホリデードライブを行いますので、コミュニティーの皆さんのご協力をお願いします。腐らない食べ物、おもちゃや防寒衣料品などを、市内のいくつかの組織やお店に置かせていただいているドネーション箱に12月13日までにお寄せください。よい年をお迎えになりますように。

JSS 編集後記

編集: ディビッド・池田 寄稿: ディビッド・池田、三船純子
翻訳: 公家孝典、三船純子
グラフィックデザイン: アンソニー・リリフェルト

Japanese Social Services
c/o J.C.C.C.

6 Garamond Court, 2nd Floor, Toronto, Ontario M3C 1Z5
TEL: 416-385-9200 • FAX: 416-385-7124
E-mail: general.jss@gmail.com Website: www.jss.ca